

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

(別紙 3)

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本社のグループとしての「慈愛の心・尊厳を守る」という理念あり、かがやきとしても707Aに飾り唱和している。		認知症高齢者が共同生活をする中で、精神的安定し健康で自分らしく過ごすことができ、孤独を感じることなく地域の方々と交流を図ることが継続できるようにしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本社の理念をグループ全体で共有し、実践している。		個別支援に力を入れご本人様が望まれるサービスを実践しているが、ご家族様の協力が無いと実践できないサービスもあり今後の課題となる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や、地域の人々に浸透するように取り組んでいる。		年2回家族会を開催している。(3月・9月)全員のご家族様が参加することは非情に困難であるが今後も続け、ホームの運営、状況報告を行っていく。参加が出来ないご家族様には来られた時に状況報告を行っていききたい。
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝の玄関掃除や近辺のゴミ拾い、ゴミだし後の清掃時や地域の行事の時などを利用し遊びに来てくださいと、お誘いしています。又地域の方に向けてホームの開放の行事を実施している。		玄関は自動ドアとなっており施錠されている。気軽に立ち寄って頂くためにも自動ドアの開放について検討が必要である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し組長も務めさせて頂き会合にも出席しております。地域交流食事会、町内会、老人会や地域行事への参加を通じ地元の人々との交流に努めている。		ふれあい昼食会に市民センターへ参加をしているが、そこには利用者様の顔馴染みの方が多く、様々な行事を楽しまれた後、テーブルを囲み昼食会となっている。毎月4名しか参加が出来ないためR-テーションをしている自分が行けないことに不満を抱くことがあるので対策が必要である。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会を開き取り組んでいる。		20年度の自治会開催時、お年寄りが多くなり日常生活が心配なので市政だよりを配布した時など様子を伺ってほしいと要望があった。今後、ホームとしても気をつけ、何か気づきがあれば民正委員と連携を図っていくことにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事により足りない事等の見直しをする事が出来る事を理解して、居室や共用空間の環境づくりに日々努め和やかな雰囲気づくりをしている。		自己評価・外部評価はいつでも誰しもが閲覧できるように設置している。また、運営推進委員会にも開示し、今後の改善に向けて取り組みを行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行った行事、今後の行事予定、今後の取り組み、事故、ヒヤリハット、サービスの実際等の報告を行い、意見交換や、評価によりサービス向上に活かしている。		事故報告等を行う中では、利用者様の個人情報保護には充分注意、配慮をすることを今後も行って行く。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話で相談したり指導を仰いだりしている。		今後、グループホーム協議会へ入会するか検討する必要がある。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在3階のご入居者様で成年後見制度を実施している。		地域福利権利擁護事業や成年後見制度に付いて、家族会等でパンフレットを配布し説明を行っている。今後も必要性が出ることを考えいつでも対応ができるように行っていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き理解を深め虐待についてのレポート提出により認識を高めている。		19年度より引き続き20年度も市の実地指導の重点項目でもある。ホーム内で虐待・身体拘束が見過ごされないよう、職員間で注意を払い、今後も防止に努めていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点を尋ね理解、納得を図っている。		身寄りがない入居者様があられる為、市の担当ケア-かとの連携、記録はしっかり残しておかなければならない。担当が変わる時があり対応・内容が入居者様へご迷惑がからないようにホームが注意して行く必要がある。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からの意見、苦情は、報告書にまとめ職員間で回覧し、改善に向けている。		各エントの目立つ場所に、介護保険苦情相談窓口・社会福祉協議会のポスターを掲示している。また、家族会等でもホームへ直接言いにくい事は重要事項説明書内に苦情受付箇所が明記されていることをお話している。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム新聞を作り、月1回ご家族等へ郵送している。その他必要に応じ各担当者より連絡、報告を行っている。		入居者様のご自分で金銭管理したくてもご家族様がさせないでほしいと要望がある為、今後双方がご納得いく方法がないか検討したい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に直接意見等をお聞きする事が多く、報告書に記入して、頂いたお言葉にはすぐ話し合いを行い議事録を取り、エリアマネージャーに報告している。		苦情内容には、掲示しない方がよい内容もあるので充分配慮して行きたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や随時行っているフロアー会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映出来るように本社へ働きかけている。		定期的に懇親会等を開催し職務中では言えないことなどを聞く機会を設けている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度状況に応じ対応出来る様に職員に伝えた承を得ている。		感染する可能性がある病気に対しては、無理することなく職員を休ませている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	かがやき内部での移動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。ご利用者へのダメージを防ぐ配慮も考慮している。		精神的、身体的に入居者様へ負担がかからぬよう、精神的ケア、身体介護の指導は徹底している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募者に対して採用対象から排除するような事はしていない。職員の持っている特技や能力を發揮できる空間や場所作りを行っている又、社会参加や自己表現に配慮している。		他のグループホーム、他施設などの体験学習をさせ、視野を広げた研修制度を設けたいと考えている。
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組みを行っている。毎日本社からの文書による人権尊重、人権教育が記載されている通達を全員が読み印を押している。		特に経験のない新卒者の研修制度を充実させ人権・啓発活動について指導している。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには二人でのトレーナー制度を導入して指導を行っている。社内研修が定期的に行われており参加しやすくする為のシフト調整を行っている。		行政や職能団体による外部の研修を受けることも推進していきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社グループでの交流は常にある。今のところ、交流の機会はない。		現実的に他業者との交流は活発な活動にまで及んでいないので具体的な取り組みを進めて行きたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	本社が月に一度の懇親会、誕生会を通じストレス軽減に向け取り組んでいる。又、リーダー、ホーム長、エリアマネージャー、本社かがやき担当と、職員が相談できる窓口を作っている		ホームでも定期的にストレスを軽減できる場面作りをしたいと考えている。又、定期的に行われている懇親会を今後も続けていきストレス発散へ役立てたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日の日報を運営者は必ず目を通し、励ましのコメントなどを記入している。		新人社員には必ずベテラントレーナーをつけ指導をさせている。トレーナーは遣り甲斐と責任感をもち良い刺激となっている。
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の利用者に対しては言葉がけをより多くし本人から話し始めるの待ち、話し始めたときは腰をすえてとことん傾聴するようにしている。		相談室が2Fエントリしかないので、常に話しやすい環境を作ることが大切と考える。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人とは別に時間をとり、お話を聞く機会を作っている。又、ご本人の為にも頻りに来訪していただけるようお話ししている。		初回ケア時時には、問題点をしっかり把握できるようにしている。利用後に不安を抱くことがないように十分なケアをしている。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	もっとも必要なサービスからプランに入れ、ご本人、ご家族の支援が出来るように全職員で対応している。		介護ケアの手配・ケア等の手続き等の代行を行っている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の好みや習慣など細かい部分を担当の職員が理解した上でサービスのを行っている。		入居者様の性格などを考え担当職員を皆で話し合っ決めていく。
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今まで生きてこられた経験をお聴きしたり、若い頃のお写真を見せていただいたりしてお互いに助け合いながら生活している。		今後も受容の気持ちで一緒に過しながら家族として支えあう関係を築いていく。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立った視点より考え又、ご家族とお話をするときは謙虚に接するようにしている。		ご家族様の介護負担軽減、精神的に余裕ができるように支援している。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の方に対する接し方や声掛けの仕方などについてのアドバイスを行う。		ご家族様に代わってなかなか会いに来られない事情を配慮し入居様の精神的なケアを今後も力をいれたいと考えている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やお手紙を出したり電話をしたりして会いに促しているし、又ホームに来られたりしておられる。		友人、ご兄弟姉妹の御都合もあるので充分状況を把握して行っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室にこもらないように声掛けを行う。又、利用者様と他の居室へお尋ねする。フロアではお話が弾まれるようきっかけ作りを行っている。		身体的軽度の方が重度の方をお世話する姿が自然と見られるときがあり職員はそんな姿を見守っている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、転居され契約終了された方のごところへも行きおたいと要望がでたときは積極的にお連れ楽しんでいただいている。又、いつでもきていただける様お伝えしている。		
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や得意な事や好きな物、嫌いな事などを把握し、好きな時に習字を又入浴、料理や買い物で好きなものを選んでいただいたりお散歩などの時間を通じ個々にお話をさせていただき希望、意向の把握		入居者様の中には、自己判断、自己決定等が困難な方にはご家族様から意見等を聞き日常生活を共にする中で何が必要で望んでいるかご本人様の立場になりサービス提供に今後も心がけたい。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、知人などからお話を聴き、その人らしくあるがままの生活が続けられるよう情報の収集に努め職員の周知に努めている。		センター方式を導入して2年が経つ、職員間では認識のレベルに違いがあるが皆が同レベルになる様今後も定期的にセンター方式の勉強会が必要と考える。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ストレス状態、不安の強い時はコミュニケーションを多くし原因を探り解消に努めている。又、過度のサービスにならないよう有する力の維持に努めている		職員は、記録以外にも一日2回の申し送り、連絡ノートを活用している。状況に応じ適切な介護を実施している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族を交えてご本人やご家族の意見に重点を置き話し合いアイデアや意見を反映しご納得いただける介護計画を形成している。		ご家族が遠方にお住まいの方には、現在の状況報告を定期的に電話連絡、お手紙等でお知らせを行いご要望、相談を受けている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	どんなことでも変化があればご家族への連絡、報告を行い、話し合っている。又、転倒など起こった際には直ちに話し合いの場を確保改善に向けた話し合いをし、現状に即した新たな計画をご家族などと共に作成に努めている。		遠方にお住まいのご家族様にはサービスの見直しが必要と判断した内容を文章にてわかりやすく明記し、それに対して返答を頂いている。又、近辺のご家族には来訪時を利用しご様子をお伝えしている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の会話、好み、しぐさ、行動、視線、などを細かく記録し職員全員で共有し話し合いを行っている。		記録の記入の仕方に職員間にバラつきが見られる。定期的に勉強会、又は個人的に指導して行き全職員が統一したレベルになる必要がある。
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々のご要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家庭で生活しているような自由な生活を目指している。天気の良い日はドライブへお連れしたり24時間何時でも入浴できるような支援を心がけている。		一日に配置されている職員は決まっておりますが希望される要望に対応できないことを考え日常的にボランティアがきてもらえるようにしたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶のボランティアが月2回来訪されている。年2回消防署立会いで、利用者参加で行っている。		運営推進委員会を通じ、消防訓練に地域の方の参加を促している。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、意向や必要性が発生していない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回、運営推進委員会へ来られている。権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、現在のところ必要性が無い。必要性が発生時に協同してください。		権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、必要性がある、無しに関わらず地域包括センターと連携を図っていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の訪問診察に来ていただいている。連携医との関わりを大切に築いている。本人、ご家族のかかりつけ医もあり自由に選択でき、安心して適切な医療を受けられるように支援している。		総合病院等では通院介助に長い時間がかかってしまう。その為、ホームにいる職員の人数が少なくなってしまうのでパート雇用の検討をしたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の専門医にて診察をうけている。職員も必要に応じて同行し相談している。電話での相談にも快く答えてくれるような関係を築いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自社グループ内の看護師やかかりつけ訪問看護師に気軽に相談でき支援に役立てている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院利用者が不安にならないように努め、退院時にはカンファレンスを行い、情報交換を確実にしホーム側は万全な受け入れ態勢で利用者が安全、安心でいられるように迎えている。		入居者様が入院した場合、職員が交代でお見舞へ行くようにしている。又、ご家族様に代わって洗濯等を行っている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の利用者に対し出来る限りの事を施し結果として、かかりつけ医と訪問看護とホームと信頼に基づいた関係を築き上げ、家族ともに方針を共有して職員一人一人が同じケアを行い記録、報告に努めている。		今後も起こりえるとされる、重度化・終末期のあり方に付いて専門の方から指導、勉強会を必要とする。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医等と共にチームを作り、何度も話し合い状態に応じ最善のケアを行えるように取り組んでいる。記録、報告を欠かさず職員全員最新の情報を共有し今後に備えている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人がグループホームから別の居所へ移り住む際、情報提供を行い、どんなに些細な情報でも提供するように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人には様付けを行い丁寧な言葉により尊厳を守っている。ご家族へいつでも見ていただけるような記録の内容及び取り扱いを行っている。		個人情報に関わる書類等は戸を管理者が管理している。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションの時間を多くとり、希望や要望を引き出すよう努めている又、説明が必要なときは納得が得られるまでゆっくり話し本人決定を待つようにしている。		自分の思いを言葉にして表わすことが難し方にはいくつかの選択しを出しうなずくなどしてもらっている。又、表情等から気持ちを察知し職員は見逃さない努力をしている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や得意な事や好きな物、好きな時に出来るように支援している。習字、入浴をしていただいたり料理や買い物で好きな物を選んでいただいたりお散歩などの時間を通じ個々にお話をさせていただき希望に添えるよう努めている。		少人数の共同生活の中ですべてを一緒にするのはなくご本人様のペースに合わせている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居されてからの行き付けや以前からの行き付け等ご本人が希望されたときは直ぐに電話にて予約しお連れする。美容室との近所づきあいも大切にしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の食べたい物をお聴きして1週間毎のメニューを作り楽しく食事が出来るようにしている。又、台拭き、配膳をしていただいたり、洗い物など職員と行っている。		毎日の食事を見て嗜好を考え外食レクリエーションを毎月開催している。ほとんどの入居者様に参加され、外での会食を楽しまれている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が望まれることに添える様、その都度お聴きしている。飲酒や禁煙に関してはかかりつけ医やご家族に了解を得て楽しんでいただけるよう配慮し、支援している。		ホーム内は禁煙となっており喫煙する場合、散歩を兼ねて近くの公園、スーパーの喫煙場まで行っている。喫煙所が必要か検討中である。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。又、トイレに気持ちよく行けるよう花を置いたり飾りを工夫している。		オムツ交換時には必ず温水で洗浄し常に気持ちよく過ごせるようにしている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お好きな時間にいつでも入浴できるよう支援している。又、イベント湯としてバラ湯、みかん湯、温泉湯などで入浴を楽しめるよう支援している。		安全面を考慮入浴時間は考えている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて好きな時に好きなようにその人らしくあれるよう自由に休息できるよう支援している。		昼間7時で日向ぼっこをされる方がおられるがそっと見守っている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かしお茶や習字や料理、お花など気晴らしの支援を行っている。又、行きたい場所へ買い物に行ったりドライブへお連れしている。		入居者様の中には花の先生・書道の段をもっておられる方がおられるので今後ホームでの教室を開ければと考えている。職員にも生け花・習字等の経験者も多くフォローが出来ると思われる。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に小銭を入れていただき近隣のスーパーへの買い物、訪問パン屋さんでのパンの購入などを行っていただいている。小遣いの申し出の希望に添いお渡ししている。		ほとんどのご家族様がホームで管理してほしいと要望がある。ご本人様がお金を持つ大切さをご家族様へ理解を得ることが必要である。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声掛けやご本人の希望により散歩や買い物、ドライブ等職員が付き添い支援している。		入居者様の中では、ご自分の住んでいた町へ帰りたい、と訴える方もおられホームだけの支援では難しい為、ご家族様の協力が必要とする。今後の課題となる。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月外食、外出レクリエーションを行っている。おしゃれをして出かけたり、毎回違ったいろいろな場所での食事やピクニックやレジャースポットへ出かける機会を作っている。		昨年は小旅行へ「あしやリゾート」へご家族様も参加され一泊した。温泉、懐石料理、絶景を楽しまれた。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により電話をする事が出来るようご家族などに了解を得て申し出に応じられるようにしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	フロアーに花や緑を飾ったり、好みの飲み物をお出ししている。又イベント毎にご家族等へお知らせして参加をうながしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての入居者様が自由に過ごせるよう日々のケアに対する改善を行う事により拘束をしないケアを実施している。		勉強会后、職員レポートを提出させ認識、知識を得たか管理者が確認を行いコメントを記入している。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けてほしいとの家族のご要望もある。自動ドアに関しては、朝の玄関掃除時や園芸の時間、午後の短時間の開放と、玄関開放の時間を作る努力をしている。		エスケープ、不審者侵入を防ぐ観点から開放をしていないが今後開放に向けての努力は必要と考える。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、入居者様はフロアーや居室で過ごされている為、常に見守り、訪室にて安全確認を行っている。夜間は1時間おきの定期訪室により安全確認を行い様子を把握している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時にご家族へ馴染みの物をもってきて頂いている。又居室に何を置いているのか、何処に置いているのかを把握しその使用状況などをチェックしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した時は直ちに再発防止に向けた話し合いを実施している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	書面にての勉強を実施している。		職員全員が消防局の普通救命講習等を定期的に受け反復訓練を行い、70分会議の時等に確認し合える様に行いたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防避難訓練を夜間設定にて1ヶ月に1度行い、又年に2度の消防署立会での訓練で指導を頂いている。日頃の交流の中で協力を得られるよう働きかけている。		運営推進委員会を通じ、避難訓練に地域の方の参加を促している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に居室内の転倒に対するご理解を得ている。又起こりえたりリスクは、当日又は翌日にご家族を交えたサービス担当者会議を開催し今後の支援について話合っている。来訪出来ないご家族は電話での対		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや、入浴時の身体観察などで体調の変化や身体に異常に気を配り、早期発見・早期対応に努めている。病院受診及びご家族への連絡につとめている。		24時間主治医へ連絡が取れるようになっている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬説情報をバインターに綴じ、口頭、連絡ノート、申し送りにて確認を行いセンター方式へ記録している。又ケア記録に症状の変化を記録し職員全員が変化の確認、把握に努めている。		特に新たな薬が処方される時には服薬後の状態に注意しどんなことでも管理者へ報告をするようになっている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別体操・毎朝のラジオ体操、散歩等で体を動かして頂いたり食事は繊維質の物を献立に取り入れている。便秘のひどい方に関しては服薬により排便コントロールをしている		好き嫌いがある入居者様には、声をかけて極力野菜を召し上がって頂けるようにしている。また、料理内容に工夫をしている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後自立の方には口腔ケアの声かけをし確認をする。義歯は洗浄剤に入れて清潔保持に努めている。又、介助の方法は歯磨き等口腔ケアを職員が行い支援している		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は日々3食の摂取量を記録に残しその方に応じ分食して摂取して頂いている。水分は毎食時、午前、午後のおやつ時、又入浴後、トイレ後、夜間、補水をしている。		お一人おひとりの召し上がられる量を把握し配膳を行っている。又、パンが主食の場合でもご飯が良いと要望があれば提供できるようにしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防勉強会を行い職員全員にレポート提出により認識を高めマニュアルを作成しいつでも観覧できるようにしている。又ご入居者様、職員全員インフルエンザの予防接種を行っている。		意識のレベルの確認を管理者が行い内容を記入している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等は衛生管理を行なっている。調理するご利用者様や職員の手洗い、消毒、又食材については賞味期限に気を付けている。		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻り、建物の周囲に植木や季節の花を多く植えている。毎朝の植木の水遣りや玄関清掃等で明るい雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての共用の空間に花を飾ったり又、季節折々の手作りの折り紙や絵、写真や書を飾っている。		比較的せまいスペースである共同の空間であるが、家庭的なあたたかい雰囲気をだす努力をして居心地良くする工夫をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの食卓も気の合った者同士が隣になり、お話ができる様に居場所作りをしたり又、ベンチや籐のテーブルや椅子を置いて居場所作りの工夫をしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が慣れ親しんだ家具や人形、備品等を置き安心して過ごせるようにしている。		時には職員と買い物へ行き新しい物を購入することもあるので全てが使い慣れた物が良いとは思わないようにしている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝清掃時70ア-や居室の窓を開けて換気に気を配っている。居室の室温の調節も季節、内外の温度により調節を行い、又その方の状況に応じて、その都度行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	70ア-や居室の手すり以外に家具の配置等に気をつけ移動しやすく危険物を廃し通路に障害物を置かないようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりわかる力活かして、自立支援をしている。更衣、排泄、口腔ケア、食事、移動等生活の自立、又料理や習字、活け花等得意な事をして頂いている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内外のお花の水遣りを利用者様と楽しみながら共に行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成20年度より神岳2丁目町内自治会に入り第14組長を務めさせていただきます。